

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成24年9月6日(2012.9.6)

【公表番号】特表2011-530804(P2011-530804A)

【公表日】平成23年12月22日(2011.12.22)

【年通号数】公開・登録公報2011-051

【出願番号】特願2011-521513(P2011-521513)

【国際特許分類】

H 0 1 L 21/027 (2006.01)

G 0 3 F 7/20 (2006.01)

H 0 1 L 21/68 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 21/30 5 1 6 E

H 0 1 L 21/30 5 1 5 G

H 0 1 L 21/30 5 1 5 F

G 0 3 F 7/20 5 2 1

H 0 1 L 21/68 K

【手続補正書】

【提出日】平成24年7月20日(2012.7.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 9】

[0051] その後、測定されたガス圧力は、制御抽出（ステップ 3 1 0） - 充填構造からの気相緩衝流体が圧力  $P > \underline{P\ 1}$  という所定の第 1 閾値を超えている場合 - を示し、または制御供給（ステップ 3 2 0） - 圧力が圧力  $P < \underline{P\ 2}$  という第 2 閾値未満である場合 - を示す。もちろん、第 1 閾値圧力  $P\ 1$  は第 2 閾値圧力  $P\ 2$  未満である。従って、気液相緩衝流体の供給および / または抽出は、緩衝流体の蒸発を介して物品の温度を制御するために、測定された熱力学特性に関連して制御される。 $P\ 1$  の表示圧力（より低い第 1 閾値）は、26.44 ミリバール未満の緩衝流体としての水について、例えば、26.4 ~ 26.44 ミリバールの範囲の閾値であり得る。 $P\ 2$  の表示圧力（より高い第 2 閾値）は、26.44 ミリバールを超える緩衝流体としての水について、例えば、+ / - 20 mK 範囲に対して 26.48 ミリバールという範囲の閾値であり得る。本明細書に記載の数値は小数点を使用して示されることが当業者には明らかである。